



オンナの感情を変えてしまう“特殊技術”！ “別れさせ屋”の

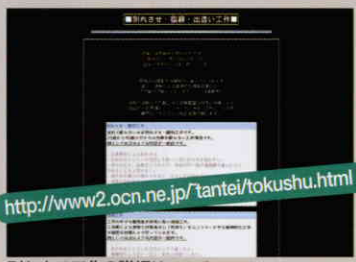
7つ道具

↑7つ道具一覧。これさえあれば怖いモノなし。
↓カバンの中に秘められる道具の数々。

金で変えられないはずの人の気持ち。それをいとも簡単に変化させてしまう離婚請負業者、別名“別れさせ屋”。その業務に必要となる7つ道具を一挙公開。これらが人の感情を変えてしまう道具なのだ。



国際紛争や北朝鮮問題、長引く不況など暗いニュースが続く日本の社会。その陰で「好きな女を彼氏と別れさせて欲しい」「暴力亭主と上手く別れさせて欲しい」という依頼が専門業者に殺到してい



別れさせ工作の詳細はHPで。



ホテルの滞在もたちどころにバレしてしまう！



↑これぞ秘密兵器の同社開発製品。

→会話を記録するボイスレコーダー。迂闊なことは喋れない？

↓2種類の盗聴発見器。盗聴が日常茶飯事の現代だからこそ活躍する。



同社のショーケースに飾られている道具類。ちなみに販売もしている。



↑「浮気の証拠」を収めるビデオカメラ。



↑行動記録を監視するモニター。



別れさせ屋ルポ P138～143

はすだ。(小)

世の人の気持ちや金で変えられる現代社会。その事実を読めば、何かを思わずにはいられなくなる。

と別れさせ屋自身も語っているように、人との付き合い方が下手になっているのはまぎれもない事実。人間の心に潜む負の要素が、年々前面に押し出している結果として、別れさせ屋の存在があるように思われてしまった。

「インターネットやゲームなどでバーチャル感覚が先行し、人間が上手に会話できなくなっているんでしょね」

ここに紹介するのは、別れさせ屋がターゲットの日常や行動パターンを調査するための7つ道具。浮気の事実が赤裸々に記録されるビデオカメラやボイスレコーダー、盗聴の事実をつかむ発見器など、様々な用途で日夜活躍している機材である。

金で買える時代がやってきてしまった。決して安い買い物ではないが、依頼をすれば高確率で異性の気持ちを変化させることができてしまうのだ。

その名も「別れさせ屋」。離縁・復縁・出逢いから三角関係のもつれ、別れた相手への復讐など、本来なら苦労しつつ自力で切り開くはずの人間関係が、

「人の気持ち金が金で買える」そんな時代がやってきた!

別離・出会い・復縁

人の縁を作る

驚異の工作計画

合法

好きな人の気持ち金が金で買えたら…。

顔を見るのもイヤな相手と別れられたら…。

昔から人々を悩ませてきた「人の縁」を工作する。

それが彼らのビジネスだ!



離婚させます!

別れさせ屋

「僕の彼女が浮気しているんです。何とか相手の男と別れさせてください！」

必死の形相で飛びこんで来た男の願いは、まるで神様にでもお願いするような内容だが、頼みの先は神棚ではない。

「分かりました。やってみましょう」

なんと、これを請け負う業者が存在するのだ。「別れさせ屋」とでも言えばいいのかわかっている。

この業者のホームページにはこんなことが書かれている。

「別れさせ工作、致します。当社秘密工作員が緻密な作成シナリオをもとに、接触・潜入により工作を致します」

三角関係のもつれから、別れた相手への復讐まで、男女間のトラブルを一手に引き受けるというのだ。聞けばここ2〜3年でこの業者への依頼はうなぎ昇りに急増。未婚カップルは男性からの、夫婦では女性からの依頼や問い合わせが殺到しているという。

一体、この業者はどんな工作をして別れさせるのだろうか。

「まずはプロの調査員が、人間の周辺から性格に至るまで、徹底してリサーチするんです」(同社スタッフ)

この業者は本来、浮気調査などを主とした探

偵社であることが分かった。それだけに、その調査力はハンパではない。尾行や張り込みは朝飯前、盗聴機やC/Dカメラなどが詰まった、言わば「探偵七つ道具」を駆使してターゲットの人物像を浮かび上がらせる。

まずはヨリを戻させて…

先ごろ、依頼があったのは都内在住の会社員男性K(27)。結婚まで考えている恋人女性Y(26)に浮気相手が発覚し、どうにかして別れさせたいという。あるうことか、女性Yは他の男と交際していることを平然と話すタイプだった。浮気相手と情事を楽しみ、ザーメンを髪につけたまま知らずに帰ってきたこともある、と依頼者Kは泣いていた。浮気相手の男には「マシオンを買ってやる」など派手な言葉を貰っていることを聞き、Kは「このままでは彼女を取られてしまう」という不安に苛まれた。形勢不利の中、薬にもすがらないで、この業者に泣きついたというわけだ。

もちろん彼女であるYに黙っての依頼であるから、浮気相手男性のデータは何ひとつない。早速、調査員はYの尾行を開始、あつという間に浮気相手T(29)の存在を浮かび上がらせた。データが揃ったところで2人の女性工員が登場する。1人は熟練の中年女性Aで、もう1人は若い女性Bだ。Aは依頼人Kの知り合いと

であるイベントプロデューサー役としてYに紹介された。そして、2人とあるイベントに誘い出すよう仕向けた。用意された場所は花火大会の特等席。艶やかな色彩が間近で見れる、まるでドラマの舞台のようなセッティングを用意してもらったYは感激し、Kを見直し始めた。

同時に、Yの工作人Aに対する信用はグツと深まった。

これがあとで絶妙なエッセンスとなる。

スケベ心を巧みに利用

一方、女性工員Bは浮気相手Tに接触を試みる。依頼者男性の情報から携帯のメールアドレスを聞き出したため、間違いないメールを送ったのだ。「ミキ」という名前を名乗って、こんなメールを送信したという。

「久しぶりですね、ミキです。元気してますか？ 私の方は夏も終わりだというのに彼氏もいなくて寂しい毎日です。たまには連絡くださいね」

Tはこれにまんまと引っかかる。運がいいことに、Tにはミキという同名の友人がいた。

「あれ、ミキちゃんって○○君の友達のミキちゃん？」

Tとの何度かのメールのやり取りで人違いという結論に落ち着いたが、Tの方から「これも何かの縁だから、もし、よかつたらメル友にな

別離・出会い・復縁、人の縁を作る驚異の交錯計画

ろうよ！」と誘いの返答があった。

別らせ屋の書いた絵の通りである。

この時点でミキの面が割れていないため、更なる接触方法が取られる。セダンタイプの車で颯爽と通勤する男に一目惚れする別の女性、という設定だ。会社で電話を入れ、後ほど会う約束を施した。もちろん「ミキ」にもお熱を上げるようなら、別の女性を「ミキ」に仕立てればいい。

同じ店での鉢合わせ作戦

リサーチされたデータがあることから、Tの好みの女性のタイプは調査済み。会社で連絡を入れた女性を別の工作女性Cに演じさせたが、予想通りTのタイプではなかった。そこでBはTのために用意された女性キャラ「ミキ」を演じ、電話やメールを続ける。急にモチ始めた、と錯覚させる二重の作戦だ。「私、Tさんと付き合えたら幸せだろうな」なんて甘いセリフも散りばめ、男を次第にその気にさせていく。

いつしか、Tは彼氏のいるYよりも「ミキ」へと気持ちが進んでいく。

そして、完全なるシナリオのクライマックスが訪れる。「ミキ」は浮気相手Tを、作業員Aは恋人女性Yをそれぞれ食事に誘い出し、深夜バーで鉢合わせにするという計画だ。もちろんミキは媚びた顔でTに接しており、恋人女性Y

は鼻の下を伸ばしたTの顔を見ることになる。これが見事にヒット。本来なら修羅場になるが、4人のうち半分は作業員である。Tは慌てて言い訳しきりとなったが、ここで本領を発揮したのがベテラン作業員のA。信頼を獲得して良き相談相手となっていることで、Yにこっそり助言していく。

「言い訳なんか聞いちゃダメ。あの男は他にも女がいる。どう見ても遊び人じゃないの」
本来ならTの言葉に耳を傾けるはずのYも、このトドメの後押しが効いて、ついにTとの別離を決意した。「別れさせ大成功」である。

大作戦の後始末

ただ、扱うのは人間の心である。この時は別れても、その後にヨリが戻る可能性もある。その点も業者は抜かりない。Yと破局して3日後、Tはそんなシヨックも見せず今度は「ミキ」に求愛メールを送り続けた。「ミキ」は「うーん、どうしようかなあ」などとノラリクラリ、うまく交

わし続ける。付かず離れずの状態で時間稼ぎするのだ。そうしているうちにK&Yのカップルは結婚が決まった。こうなるとTがYと「元サヤ」になることはない。「ミキ」はTに「実は今度、結婚することになりました。いろいろあ



携帯電話での会話を聞けてしまう！

りがとう、さようなら」というメールでアツサリとサヨナラ。

残酷なようだが、これが現実だ。その後も浮気男はYに電話を入れたが、女性は一度気持ちが悪くなるとアツサリしたものである。しかも時間が経過している。

調査開始から約2ヶ月、大掛かりな工作は全て終了した。

「工作員とターゲット」

まったく凄い業者が現れたものだ。男女間に行く先を決められたシナリオの上に乗せ操っていく。

「依頼のケースはそれこそ十人十色、様々ですが、〃別れさせ〃の場合は、だいたい男性にニセの合コンをセッティングしたり、好みのタイプの女性工作員をあてがうことで成功することが多いです」(前出スタッフ)。その場合、先の実例のように、中には女性工作員に本気で惚れ込んでしまう男も出てくるという。体当たりの工作のため、場合によってはキスなどのボディ・コミュニケーションを許してしまうこともあるだろう。

「男性工作員の場合は、惚れてきた女性と寝てしまうことだってありますよ。女性工作員がどこまでやっているかは、本人に任せてありますので、本人のみぞ知るところですね(笑)」

ちなみに女性工作員は、キャバクラ嬢などある程度男の扱いに慣れた女性が適任だという。

この業者、全国に25の支部を持つというから、場所が地方だろうが関係ない。各地にスタッフそれぞれ点在している。調査・工作員は、様々な分野に得意な人間が揃えられており、また、いろいろなタイプの役に变化できるため、あらゆる状況に臨機応変に対応することができるといふ。

こうした技術を駆使して〃別れさせ〃だけでなく、〃復縁〃や〃出会い〃まで請け負っている。

「復縁が離縁に早変わり！」

昨春、復縁依頼をしてきたのは青森県の夫E(34)。妻S(29)が前触れもなく幼い子供を連れて家を出て行ってしまったのだ。いわば別居状態。妻を何とか家に戻せないかという要請だった。早速、調査員が動いた。

「いくらなんでも、急に別居はおかしい。他に男でもいるんじゃないか?」

疑問に思った調査員は依頼者男性に頼み、妻の車に発信機を取り付け、その足取りを分析していった。

すると妻Sの車は毎夜、一定の場所に行っていることが分かった。その場所はスナック。Sはここでホステスとして夜のバイトをしていた

のだ。さらに勤務後、発信機はラブホテル街への出入りを示した。

予想的中、男がいるのは間違いないかった。

ここで工作員が登場。中年男女2人組のカップル工作員で、うち男はなんと占い師という役柄。Sが勤務しているスナックの客として現れるのだ。初対面のSを目の前にして女性工作員は、「あら、何かいいことあったの。恋人でもできたんでしょう?」と気さくに話し掛けた。図星のSは頬を緩め「わかります?」と、一気に心を開いていく。男女カップルが相手のため「彼氏なんかいません」と、フリーの振りをする必要もない。これも全て計算づくである。

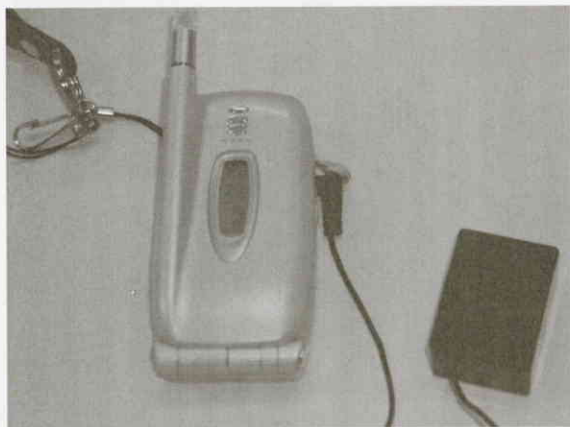
そこで女性工作員が言う。「こっちは占い師なのよ。私の会社もこの人のお陰で潤っているの。あなたも占ってもらったらどう?」女性性は占いに弱い。すぐに応じてきた。

「ヤミ」知識.....21

別れさせ以外の調査項目

「別れさせ屋」はあくまで業務の一部。以下のような調査も可能である。
電話番号調査...一般電話を始め携帯電話・PHS・ボケベル番号より使用者割り出しや、電話番号割り出し。
結婚調査...結婚する前に是非知っておきたい相手や家族についての情報。
盗聴発見調査...盗聴器の探索。
DNA親子鑑定...個人・親子特定のための調査。
人探し・家出人捜索...文字どおり失踪した人間を探す調査。

別離・出会い・復縁、人の縁を作る驚異の交錯計画



携帯電話専用の小型の盗聴システム

「紙にあなたが関係している男性の名前を何名か書いてもらえますか?」と占い師。素直にSは男の名前を書いてきた。

これが実は、浮気相手を知るための手段だったのだ。スパイ大作戦も仰天のプロの手口だ。

Sは紙に2人の男性の名を書いた。いずれも夫Eの名前ではない。

浮気相手は2人存在した。1人は独身、片方は妻子持ち。

さらに占い師は「おかしいですね、あなたにはもう1人、強い光を感じる男性がいるのです。

その人の名前を書いてください」と語る。ここで洗々、Sは夫の名前を書き出した。

「ここで男性作業員は心理学を応用する。」一番最初に書く人物が本命である」とにらんだのだ。

「あなたの本命はこの人でしょうか?」

完全に心を見透かされ素直になったSに、今度は女性作業員がメスを入れる。年上の中年女性と相手とあつて、まるで身の上相談でもするかのようにSは全てを洗いざらい話してしまつた。

夫は典型的な亭主関白で、さらに暴力まであつたことが発覚。そのためにSが子供を連れて飛び出した。原因は夫にあるが、妻は既に2人の浮気相手があり、さすがに復縁するには無理がありすぎる。浮気相手に子連れ再婚を拒否されたSは「子供はあなたが育てて」と言いながら、浮気相手と子供が仲良くなると「子供はこつちで面倒見るから」と言い出す始末。しかも調査を続けていくと、夫に内緒で浮気相手との間に出来た子供を処分していたことまでも発覚した。

念のため、作業員は依頼人Eにこの調査結果を報告すると、やはりEは突如、復縁をやめると言い出した。依頼内容の変更である。恋愛事情が商売だけに、こうしたことはよくあるようだ。離婚を決意したEは、慰謝料を取るための浮気の証拠集めを依頼してきた。

その後、徹底した盗撮、盗聴で証拠を完全に揃えたことは書くまでもないだろう。

安くはない恋愛操作

気になるのは費用だが、上記の例ではおよそ100万円前後かかるといふ。本来は自分で解決せねばならない人間関係。そんな大金を出してまでの相手なのか、というのが正直な印象だが、それでも依頼は絶えないどころか、増える一方なのだ。

「バーチャル世代だけに、恋愛ひとつ、自分では何もできない人が増えてますね」

この驚くべきプロフェッショナルたちの工作の成果は絶大だ。現在では技術の発達で、盗聴器ひとつにしても、発見器では見つけることができない無敵の機器が揃っている。盗聴音は持っている携帯電話から、人間の声のみをかかなりの精度で聞きだせるという。

「この世で人の心を扱うのが一番難しいため、百発百中ということはありません。それでもかなりの確率で不可能とする自信はあります」

我々の日常にある出会いと別れが、ひよつとしたら作業員の手によって作り出されたものかもしれない。恋愛工作人の活躍によって、世の中の恋愛が次々に操作されていく時代がきてしまうのだろうか。(五)